

# 1 弥蘇場の湧水

所在地：西庄町



八十場にある語り継がれる湧水「弥蘇場(やそば)の湧水」。

今からおよそ1900年前に讃留霊(さるれ)王が瀬戸内海の巨大な悪魚を退治しました。悪魚退治にむかった兵士たちは、悪魚の毒により瀕死の重症になっていましたが、その兵士たち88人がこの水で蘇ったことから、「弥蘇場の湧水」と呼ばれるようになったそうです。また、崇徳上皇が亡くなった後、上皇の御遺体を、都の指揮を待つ間「弥蘇場の霊水」にひたしておいたといわれています。その清水は枯れることなく、令和となった現代でも金山から湧き出ています。

※ 坂出市観光協会ホームページ 坂出市観光協会フェイスブック 参照

# 2 壱田の碑

所在地：京町三丁目5番5号

久米通賢の尽力により、1829(文政12)年、3年の月日を経て坂出壱田は竣工しました。藩主松平頼恕はその偉大な功績を称え、後世に伝えるため壱田地の東西中央にあたる菅原神社境内に、阪出壱田之碑を建設しました。

文は高松藩で文作家として知られていた岡内棟、書は楷書日本一と称せられた加賀藩の河三亥(市河米庵)、彫刻は江戸の名工広瀬群鶴・群亀親子によるものです。

江戸の地で作られた石碑は、1829(文政12)年12月、海路にて坂出の地に運ばれ、坂出の発展を伝えるとともに、江戸時代を代表する貴重な石碑にもなっています。1957(昭和32)年1月、坂出市の文化財に指定されました。

※ 坂出市観光協会ホームページ 坂出市ホームページ参照



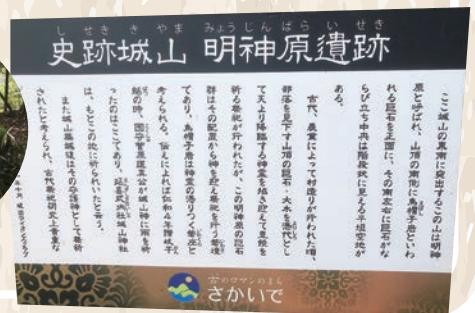
# 3 明神原遺跡の烏帽子岩

所在地：府中町

讃岐のほぼ中心地にある坂出市府中町城山の頂上南側に明神原遺跡に烏帽子岩といわれる岩があります。現在、天神様、学問の神様といわれている菅原道真が讃岐守に赴任して3年目の仁和4年(888年)には、雨が降らず大干ばつで麦も枯れ、田植えもできない状態でした。

道真公は人民の苦しみを救うため自ら身命を賭して仁和4年5月6日烏帽子岩前で7日7夜祈雨、その後、3日3晩雨が降り続き、烏帽子岩前に集まった民は道真公の前で踊って舞い、歓喜を表しました。この舞踏が念仏踊りの起源であり、菅原道真公が祈雨したのは、この場所といわれています。

地元ボランティアの人達が手入れしており、見学しやすくなっています。一度訪れてはいかがでしょうか。



## 編集後記

12月定例会では令和2年度一般会計決算など11件の決算を認定し、また、常任委員会に付託された条例改正案、補正予算案などを可決しました。

昨年は、新型コロナウイルスの変異株による感染により収束が見通せず、議会報告会が開催できない状態でした。議員活動、議員の人となりを発信するため昨年10月よりFMサンでラジオ放送を開始し、また、SNSを開設しました。今後も様々な媒体を活用して議員活動を発信していきます。(脇)

広報広聴委員会 委員長……植原 泰 副委員長……丸岡豊和  
 委員……山条真嗣 脇 芳美 東原 章  
 鳥飼年幸 若谷修治 若杉輝久

次回開催は…  
 3月定例会を3月上旬に、  
 開催予定です。

